

別府港海岸施設計画検討の概要

現在整備中の餅ヶ浜地区をはじめとした別府港海岸の利活用のあり方を検討するため、有識者、地元団体の代表等をメンバーとした検討会を組織し、「利活用基本方針」の策定を行っています。第1回検討会は平成18年9月28日（木）に開催し、利活用に関する課題や要望について提案・意見を伺いました。

第2回検討会は12月15日（金）に開催し、将来の海岸利用のあり方を想定した仕組みづくりと、それに対応したルール・マナー項目について意見交換を行いました。検討会では「別府港海岸の課題」を「海岸の未利活用に関する課題」、「ゴミ等の課題」、「安全面、治安面の課題」の3つに集約しました。そしてこれらの課題を解決し、さらに利用を促進していく仕組みとして「利活用方針」を位置づけ、議論しました。

具体的な仕組みの内容として「市民参加を視野に入れたビーチコミュニティの形成」、「ルール・マナーの明文化」、「海岸利活用条例について」、「指定管理者制度の導入」を議論し、具体化に向けての方策や課題を抽出しました。また、「利活用基本方針」に示した取り組みを「海岸整備後概ね3年程度を目処に実現を目指す」という時間的な実現目標も盛り込むことが提案されました。

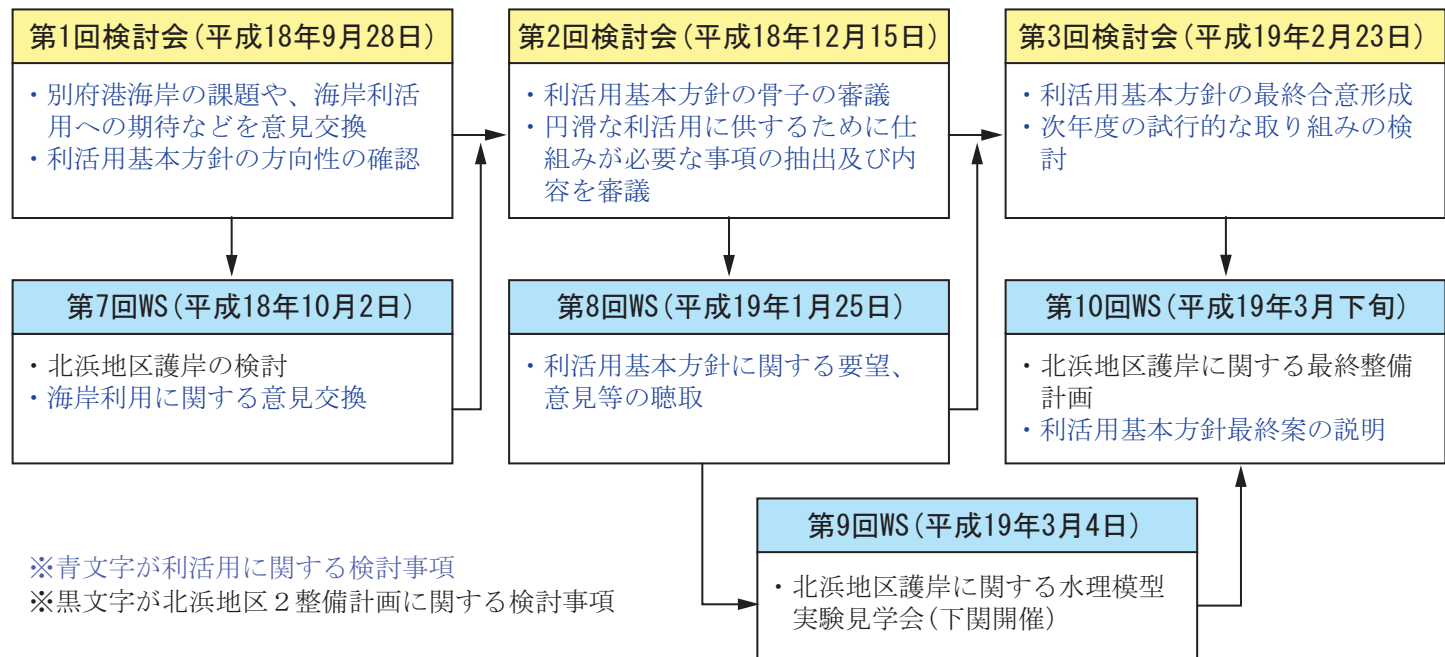
今後、2月23日に最終の第3回検討会を経て、「別府港海岸利活用基本方針」として取りまとめる予定です。

第2回 別府港海岸施設計画検討会 会次第	
1. 開会	
2. 発注者挨拶	
3. 座長挨拶	
4. 議事	
4.1	第1回検討会議事概要
4.2	別府港海岸利活用に関する地域の期待（アンケート調査結果）
4.3	第7回ワークショップ 意見のまとめ
4.4	利活用基本方針（案）について
4.5	審議・意見交換
5. その他	
6. 閉会	



検討会の様子

別府港海岸施設計画検討のスケジュール



お知らせ

第9回ワークショップは、3月4日に開催いたします。北浜地区2の整備計画に関して、下関の水理実験センターにおいて水理模型実験（平面模型）をご見学いただく予定です。

※別府港海岸の整備に関する情報は下記別府港湾・空港整備事務所ホームページに随時掲載していきます。是非ご覧ください。
<http://www.beppu-port.go.jp/>

別府里浜づくり新聞

第17号
平成19年
2月23日

第8回別府港海岸づくりワークショップで別府港海岸の利活用についての検討を行いました



第8回別府港海岸づくりワークショップ（平成19年1月25日19時より大分国際交流会館にて開催）では、別府港海岸施設の利活用について参加者の方からご意見を頂きました。当日は、43名の方々にご参加いただきました。

はじめに、当事務所と別府市により進めている別府港海岸施設の利活用検討について説明し、さらにビーチの利活用先進事例およびビーチクラブ活性化のあり方・理念について説明を行いました。

その後、参加者の皆さんは5つのグループに分かれて、これからの海岸の利活用について相互に意見を交わしていただきました。

利活用に関する主な意見の概要

海岸を楽しく安全に利用していくための方策として、①ビーチクラブを形成するために必要と思われる方策、②ビーチクラブ等による海岸の利活用に必要な行政支援方策、③必要なルール・マナー項目の提案、④海岸間の連携、の4項目について、グループごとに討議を行って頂きました。討議・提案されたご意見は付箋紙に書き込み、項目分けした模造紙に貼り付けて頂き、約170のご意見を頂きました。各テーマにおける主な意見は、以下の通りです。

- ①ビーチクラブを形成するために必要と思われる方策
既存団体の活用から、NPO法人の立ち上げやキーパーソンの育成など新たな仕組みの創出までが提案されました。またソフト面の対応とともに、コミュニティスペースの用意など施設面での要望もありました。
- ②ビーチクラブ等による海岸の利活用に必要な行政支援方策
施設整備に関するものと、ゴミの対応に関するものが多くを占めました。
- ③必要なルール・マナー項目の提案
ゴミの問題が最も多く、ついで喫煙、花火の規制、ペットの散歩、釣り、不法占拠に関してルールが必要とのご意見でした。
- ④海岸間の連携
サイクリングロードや遊歩道による連携方策について、別府港海岸全体はもとより、大分から杵築・国東に至る連携が提案されました。

他にも、いろいろな施設整備に関する必要性の是非や、利用ルールの規制レベルの考え方など、相反する意見も散見されました。（意見の詳細はp. 2に掲載しています）

第8回 別府港海岸づくりワークショップ 会次第	
1. 開会	
2. 別府港海岸施設の利活用検討について	
①	施設計画検討の説明
②	ビーチ通年利活用先進事例の紹介（別府港海岸利活用基本方針の考え方）
③	ビーチを通年利用するために
④	グループ討議
3. 閉会	



グループ討議の様子



ご意見を書き込んだ付箋紙を貼り付けた模造紙

ワークショップにおける意見の内容

海岸整備後の施設の利活用について、ワークショップで頂いたご意見やご要望は以下の通りです。

【ビーチクラブを形成するために必要と思われる方策】

●既存団体の活用

- ・「ふるさと会」（別府湾のすばらしさを勉強する会）
- ・既存組織のNPO法人化（老人クラブなど）
- ・教育機関との連携（特に、小学校）
- ・自治会、中央商工連合会との連携

●新たな団体の組織

- ・磯浜クラブ、自然観察クラブ（上人地区）
- ・ジュニアビーチクラブ（地区別、校区別等で組織）
- ・海の環境を考える会

●人づくり

- ・観光案内所の設置、ビーチのボランティアガイドの募集
- ・キーパーソン（専門家）の育成

●啓蒙活動

- ・北浜旅館街の自主的な参加が必要
- ・「観光」－「ホテル・旅館」－「海岸」の連携
- ・地元住民中心の活動の促進
- ・海を活用する市民意識の向上、将来のビジョンが必要
- ・学校教育、環境教育（大人向け、子供向け、親子向け）
- ・自分たちの誇るべき海岸であるという意識の醸成（各海岸に親しみやすい名称付け）

●施設整備（人をひきつける装置）

- ・トイレ、レストハウスの設置
- ・人が集まりやすくなる施設の整備
 （駐車場、ビーチバレーコート、バスケットゴール、コミュニケーションルーム、マリンスポーツ用水域、万歩計の貸出、ビーチボードの貸出、足湯、運動場）
- ・夜間照明
- ・電気・水道が利用できる
- ・観光地としてふさわしいモニュメントの設置
- ・遊具の設置はしないほしい
- ・案内板の設置
- ・遊歩道の整備
- ・海岸背後の緑地に和風庭園を作らない
- ・イベント会場として十分に広いスペース（砂浜 等）
- ・スポーツで人をひきつける用具整備（カートリング・カヌー等）
- ・オリアナ棧橋の活用

●景観・環境づくり

- ・幅広い世代で利用できる交流の場としての海岸づくり
- ・地元の人が慣れ親しめるビーチづくり
- ・別府の地域性や歴史性を感じられる「別府の海」づくり
- ・別府ならではの海岸からの景色を楽しめる環境づくり
- ・上人ヶ浜は磯等の自然を生かした海岸として活用
- ・10号線などの道から海やビーチが見えるようにする
- ・木で海を隠さない、高い木を少なくする、海岸に適した植栽
- ・海岸沿いの建築物に高さ制限をかける
- ・地区ごとのイメージカラーの設定
- ・バリアフリー

●ルートづくり等

- ・大分～別府～国東サイクリングロードを設置（歩道と自転車道両方）
- ・浜脇から亀川、関の江まで海岸線沿いを歩けるようにする
- ・スパビーチの防波堤にサイクリングロードの設置
- ・不法駐輪の自転車を転用したレンタサイクルの整備

【海岸間の連携について】

【海岸を楽しく利活用していくために必要なルール・マナーの提案】

●利用ルール

- ・ビーチ利用のルール設定（予約方法、区割、利用時間等）
- ・危険スポーツの規制
- ・ルールにより規制しすぎると楽しく利用できなくなる一面もある。ルール作成と併せて今まで禁止していたことの見直しも必要。

●利用者マナー

- ・周辺住民へ迷惑（騒音等）をかけない夜間の花火等の利用方法
- ・禁煙ビーチの施行
- ・ペットの散歩時のフンの処理等のマナーアップ
- ・釣り客のゴミの持ち帰り等のマナーアップ
- ・不法占拠者の退去、法的処理も必要

●ゴミ対策

- ・ビーチ利用のマナーアップが必要
- ・行政による定期的なゴミの収集、清掃ルールの確立（台風後の流木等漂着ゴミの迅速な処理）
- ・漂着ゴミは行政、イベントゴミは各団体、個人ゴミは個人意識の向上を図るなど役割分担による対処
- ・ゴミ箱の設置
 ⇨ ゴミは持ち帰ってもらうためにゴミ箱は設置しない
- ・団体や個人で集めた海岸のゴミの迅速な回収
- ・台風後の清掃
- ・海岸清掃費の予算化

●制度・民間活用

- ・違反者への罰則を設ける（条例化）
- ・海岸の利用に関する規制緩和（カフェ営業時間等）
- ・民間活用のための補助金（イベント支援、ボランティア支援 等）
- ・熱意とやる気のある団体への優先的な支援

●体制

- ・長期的な人々のかかわりを醸成するサポート（ビーチクラブ員への研修、指導）
- ・行政の連絡窓口の一本化（土日も含め夜間も対応してほしい）
- ・自主的な市民団体と行政の協働の体制づくり

●イベント

- ・住民が参加する健康ウォーク、市民海岸散歩大会等の企画
- ・別府市主催によるイベントの開催

●治安・安全

- ・災害時の非難システムの整備
- ・誰もが安心して利用できる治安の維持

【ビーチクラブ等による海岸の利活用に必要な行政支援】

●その他（現状課題に対する要望）

- ・板で囲われたSPAビーチの休憩施設を開放する
- ・上人ヶ浜の歩道は台風時に歩きづらい（石や砂が上がる）
- ・新港・餅ヶ浜地区の環境問題の解決
- ・整備についての住民説明、意見交換の実施
- ・北浜遊歩道の破損箇所の整備、雑草の手入れ
- ・上人ヶ浜の旅館側の専有状態の解消、通り抜けられるよう調整
- ・サンライズ若草前の道路の車両通行禁止（午後11時から午前5時まで）の継続

ビーチ通年利活用事例の紹介

別府港海岸では、通年的に利活用していただくための海岸のあり方、利活用の方法を検討しています。全国で先進的に取り組まれている事例を参考にしつつ、別府港海岸における利用の仕組みを考えていきます。

○通年利用型施設の整備～平塚海岸（神奈川県）

平塚海岸は、通年利用型施設として、海岸の一部にビーチスポーツエリアを設定しています。ビーチスポーツエリアには、トイレを含むビーチセンターやビーチバレー、ビーチサッカー等のビーチスポーツのコートの他、電源が設置されたボードウォーク等が整備され、一年を通じて様々な形で利用されています。



通年利用の拠点となるビーチセンター



ビーチスポーツの観覧席にもなるボードウォーク



協賛企業名入りインフォメーションボード

○「大洗海の大学」とバリアフリービーチ～大洗海岸（茨城県）

大洗海岸では、大洗をまるごとキャンパスにして様々な活動を行う「大洗海の大学」の取り組みを行っています。海の大学で提供するプログラムには「磯遊び」、「スポーツカイト」、「ライフセービング」、「漁業体験」、「干物づくり」などがあり、海辺のみならず、大洗のまちづくりとしての活動が行われています。また、日本初のバリアフリービーチとしてビーチ用車椅子を導入し、ライフセーバーなどの協力のもとソフト面の体制も充実させた運用をおこなっています。



ビーチ用車椅子「ランディーズ」



旅客船をバックに楽しむビーチサッカー



広い海浜を活用したマラソン大会

ビーチクラブの事例の紹介

別府港海岸では、ビーチを利用する人々が集まってつくるビーチクラブの形成を検討しています。ビーチクラブとは、ビーチスポーツをはじめとする様々な海辺の楽しみ方を提供する海辺における地域コミュニティです。ビーチクラブをきっかけとした海辺活動を通じて、地域の新たな人間関係が形成され、ひいては地域活性化にもつながることが期待できます。また、健全な海辺の通年利用を促進する効果も期待できます。活動内容は、砂浜を活用した競技スポーツだけでなく、海岸清掃などの環境活動等、ビーチに関わる様々な内容が考えられます。

○全国ビーチクラブネットワーク

現在、平塚（神奈川県）・羽田（東京都）、鴨川（千葉県）、阿南（徳島県）等の全国6箇所でビーチクラブが組織され、それぞれ月1回程度の活動を実施しています。ビーチコーディネーターと呼ばれる専門スタッフとボランティアスタッフにより、季節に合った様々なイベントが企画・運営され、地元の人はもちろん誰もが参加出来ます。全国ビーチクラブネットワークでは、ノウハウの提供や各地の情報交換等を行っています。



シーカヤック体験



なぎさの生物展示



ビーチフラッグス



冬の活動